

## 現代ビジネス科の新しい取組

### タブレットを使った授業実践

現代ビジネス科 講師 柳田 健太

今やコンピュータスキルは、「学んで使えるようにする」時代から「使えることが当たり前」の時代に変化してきました。そこで現代ビジネス科では、日頃からコンピュータ機器に慣れ親しんでもらうことを目的に、学生全員にタブレット端末(Surface)を貸与し活用してもらっています。

登学の際にはタブレット端末を常備してもらい、どの科目でもタブレットが利用できる状態にしています。そのためコンピュータに関わる演習科目だけでなく、講義科目や実習科目においても情報検索やレポートの提出などその場に応じてタブレットを活用する機会を設けています。また、タブレット活用のメリットとして、学内のどこにいてもインターネットが使えるように無線LANを設置しています。そのため、授業内外での活用の際には、インターネットや学内専用ネットワークを用いた共有フォルダを活用し、教員と学生、学生間のデータのやり取りをスムーズに行える環境が構築されています。こうした取り組みを通して、学生のコンピュータに対する不安や苦手意識を取り除き情報機器活用スキルを学生個々人の強みにしてもらいたいと考えています。



本学でのタブレット端末導入の目的は、コンピュータありきの教育ではなく、あくまで道具としてコンピュータを使いこなし、情報を効率的、効果的に活用できる実践力を兼ね備えた人材を育てていくことです。情報化という時代の流れに

立ち向かうためにも、現代ビジネス科でコンピュータを活かした実践力を身に付けて欲しいと願っています。

## 地域ボランティアの取り組み

地域交流研究センター委員長 守川 美輪

宮崎学園短期大学では学生のボランティア活動への参加を推進しています。授業科目「ボランティア実習Ⅰ・Ⅱ」は、規定時間の活動とその報告書の提出によって、単位を認定します。

地域交流活動には、清武町商工会と連携した「イルミネーション」や、清武社会福祉協議会と連携した子育て支援センターや保育園での「読み聞かせ」、西新町さんさんクラブと連携した「七夕祭り」、きよたけ児童文化センターと連携した「クリスマスフェスタ」などがあり、多数の活動で学生が活躍しています。

また、ボランティア要請があれば掲示して学生に知らせ、参加を促しています。本年度もこれまで99の団体から要請があり、特に口蹄疫復興イベント「水平線の花火と音楽」には73名の学生がボランティアとして参加しました。参加した学生の感想に「一日中客列誘導や仮設トイレのペーパー補充などで正直辛かった。でも、「ありがとう」、「お疲れ様」とお客様からの労いや励ましの言葉に元気が出ました。」「多数の方々ボランティアに関わっていて、地元の私にとって決して忘れてはいけないことだと感じました」などがありました。



これらのボランティア体験は学生にとって多様な方々とコミュニケーションを取り、より広い世界へ第一歩を踏み出す機会でもありません。意義ある活動に参加する喜びがあり、学生の成長や自信に繋がっていると感じています。

## 卒業式のご案内

卒業式は、学位記・修了証書授与式という形で3月19日(木)10時より体育館で行われます。多数の保護者の参列をお待ち申し上げます。式終了後、卒業生は教室に分かれて学級主任から証書等を受け取ります。どうぞ保護者の方も教室にお入り下さい。

日時 3月19日(木)10時～ 場所 体育館

## 後援会総会・保護者会のご案内

後援会総会は、4月7日(火)入学式終了後、11時より体育館で行われます。決算・予算の承認、役員を選出を予定しています。多数ご参加下さい。

日時 4月7日(火)11時～ 場所 体育館

保護者会は、2年生は5月30日(土)、1年生は10月17日(土)に行う予定です。改めてご案内を差し上げますが、全体会・学科会・学級主任との面談という流れで実施されます。どうぞ奮ってご参加下さいようお願い申し上げます。

日時 2年生：5月30日(土) 1年生：10月17日(土)

## 宮崎学園短期大学市民講座 ニューライフアカデミー

### 地域に開かれた学園

生涯学習推進委員長 後藤 多津子

毎年ご好評いただいております「ニューライフ・アカデミー」を下記のとおり開講します。本学教員の専門を生かした楽しい講座ですので、どうぞお気軽にご参加ください。

なお、昨年9月には新たに「高齢者いきいき講座」を実施し好評の内に終了しました。この二つの市民講座は来年度も開講します。ご案内は本学ホームページに掲載しています。

お申し込み・お問い合わせは下記まで。  
宮崎学園短期大学生涯学習推進委員会：0985-85-0146

日程(10時～12時)	テーマ	講師
2月19日(木)	「奈々に」が生み出したもの	学長 山下 忍
2月26日(木)	茶の世界に親しむ	講師 倉永 愛子

## 校舎建て替えのお知らせ

平成27年1月から校舎建て替え工事が始まりました。現在の1号館、2号館、3号館を順次取り壊し、新校舎を建設いたします。完成は平成28年度中の予定です。



## 50周年記念行事のお知らせ

昭和40年開学した宮崎学園短期大学は、来年度創立50周年を迎えます。半世紀という節目の年を迎えるにあたり「創立50周年記念行事実行委員会」を立ち上げ、10月12日の創立記念日に向けて準備を進めています。記念行事としては次のようなものを計画しています。

・記念式典 ・記念誌 ・祝賀会 ・記念ロゴマーク

# 3 後援会だより

March 2015 Vol. 26



孔ちゃん 勤くん  
宮崎学園短期大学マスコットキャラクター



保育フェスティバル

## 学長所感

### 創立50周年 「天命を知る」

宮崎学園短期大学 学長 山下 忍

「論語」の中には思いを掻き立てる語句が数多くありますが、私の場合、「天命を知る」がその代表的なものの一つです。

「五十にして天命を知る」。孔子は、「私は齢五十に至った時、天が私に与えた使命の何たるかを承知した。」と語り、この述懐に基づいて誕生したのが「知命」。人生五十年も生きてきたら、天が己に何を使命として与えたか、それをよくよく承知して生きねばならない。

私たちのこの宮崎学園短期大学は、昭和四十年(1965年)に、宮崎女子短期大学の名称のもと、この忍ヶ丘の地に定員八十名の保育科一学科として誕生しました。そして今、本年10月の12日には、創立五十周年の記念日を迎えます。本学は遂に「知命」の齢に達したのです。

振り返ると、様々の変容を見た五十年であったなど、大きな感慨が湧きます。やった、やったと、叫びたくなる変容もあったし、どうしてこうなってしまうのだと、歯

をギリギリ言わせたくなる変容もありました。

しかし、様々な姿を一つに束ねて、湧き出る思いを一言で言えということであれば、私たちの学校は、「よく頑張ってきた大学」だと胸を張って言い切ってよかろうと思います。

私は、本学は五十年の歴史を刻む中で、ここに集う者すべてに、大事に大事に思われる学校になったと思っています。ここで教育に当たる教職員が例外なく大事にし、誇りとする大学。そして、ここで学ぶ学生たちが、これまた、誇りにし、大切にしている大学。私はそう言い切って間違いのない大学だと思っています。

半世紀を経た今、自分たちの学校は、かけがえのない価値高き存在となった。思えばこれほどに幸せなことはなかろうと思います。これを機にもうひとふんばりして、より高きに到達したい。欲張りではありますが、これが願いです。



# 地域に根ざした50年

## 「地域に根ざして50年」

保育科長 野坂 敬

清武の地に根を下ろして50年が経過しました。この50年は、一歩一歩を大切に歩み続け、確固たる基盤を築いてくれた諸先輩の尽力と、県民の皆さまの本学に寄せる熱い期待に支えられての50年であったと感謝の念でいっぱいです。

一粒の種が、多くの人々から期待され、芽吹くことができ、しっかりとこの清武の地に根を下ろし、枝を広げ、葉を茂らせ、大きな木に育つことができました。そして、その幹のもとに、集い、学び、保育者として育った卒業生が8,000名を超える数字となり、どここの保育所・園や幼稚園、福祉関係施設等を訪問しても「本学出身です」と自信を持って挨拶していただける諸先輩がいる。そして、その園で重要な役割を果たしておられる多くの先輩がいる。こんなにうれしいことはありません。

このことは、後に続く多くの本学卒業生や在学生への安心とな

り、保育をささげる力として現場で育てられ、地域の方々の信頼へとつながっているものであります。

このように、本学が最も誇れるものは、多くの県民の皆さまや関係者から寄せられる期待に応え得る人材や、蓄積した「子ども」にかかわる多くの知識・技術を支える人脈の輪であります。学科のスタートから50年目を迎え、「保育」を取り巻く環境は、地域経済や育児意識、育児環境、高齢化等、多くの課題に直面し、保育を支える人材への期待は益々大きくなっておりま

す。「子どもがすき」だけでは期待にこたえられなくなってきました。今後とも、諸先輩の皆さまのご支援をいただきながら、新たなニーズに対応できる「新たな保育」の専門家の育成に向けて取り組んでまいります。

## 地域との出会い 私のすべきこと

保育科2年 黒木 あゆみ

私の保育科への入学は、地域におられる多くの方と出会うきっかけとなりました。実習やボランティア、アルバイトを通して地域の行事に関わることで、自分も地域の一員なのだという自覚が芽生え、そういった目線で見ると地域は子どもたちに様々な経験や勉強の場を与えるとても大切なものであると感じるようになりました。

現代は地域の人々の人間関係が希薄になってきていると言われますが、私達が子どもたちと地域をつなぐきっかけをつくっていくかなければならないと思います。そのためにも、地域の人達と協力しながら、そして専攻科に進んで更に勉強して地域に貢献できる人材に成長したいと思います。



## 初等教育科はあり続けます

初等教育科長 黒木 國泰

この平成27年3月の卒業生をおくり、初等教育科は49年の歴史を閉じることとなります。しかし、初等教育科はなくなるわけではありません。宮崎国際大学教育学部に発展的に継承されていきます。4年制大学として、小学校教諭と幼稚園教諭の一種免許状の外に、保育士資格も取得できる姿に成長しています。昨年春からすでに1年生が元気に勉学中です。

時うつり、教職員や学生のヒトは年々歳々替わります。校舎も新しく建て替わります。また世の中の変化に合わせて、制度や名称

が変わります。キャンパス内の樹木もできる限り残されるものの、伐採されたり新規植樹のものもあり、景観が変わります。しかしなお、忍ヶ丘の地に脈々と伝えられる初等教育科の師弟同行の伝統や礼節勤労の心は易ならず受け継がれます。

3,300名に垂とする初等教育科卒業生の皆さん、忍ヶ丘の短大、国際大にどうぞ遊びにおいでください。私たち教職員学生は、皆様を心から歓迎いたします。

## 半世紀の節目

人間文化学科・現代ビジネス科 学科長 久保 良一

人間文化学科・現代ビジネス科は、約50年にわたり多様化する社会に対応するために幾多の変遷を繰り返してきました。その変遷は、1966年に国文科を設置し、また、グローバル社会に対応するために、1986年に英語科を置き、全国及び本県の産業界や文化に貢献しました。そしてこの2学科の教育を存続・発展するために、2003年に人間文化学科を設置しコース制へと移行しました。

コースは「文化ビジネス」「英語コミュニケーション」「国語国文」「医療事務・医療秘書」の4コースとし、有能な人材を社会に輩出してきましたが、さらに変化し続ける現代社会に対応できる人材の育成が急務となり、深く専門の学芸を教授研究し、職業能力を育成すると共に、礼節を体し、勤労を尊び、豊かな人間性と教養を備え、ビジネス社会に貢献できる人材を養成するため、

2013年に学科名を「現代ビジネス科」と改題しました。

この学科は、高度な専門性を養成するために、以前と同様コース制を取り教育を行うこととし多様化するビジネス社会の中で、柔軟に活躍できる幅広い人材の養成を行うための「ビジネスコース」と医療社会で活躍できる人材の養成を行う「医療事務・医療秘書コース」を置きました。

現在、質の高い教育を施しながら即戦力や高い実践力を身に付けた人材を育成しています。

本学科は、今後とも地域に貢献する学科として地産・地育・地消を大切にしながらビジネスや文化をさらに充実発展していく決意であります。

## 「全員が仲間」

人間文化学科 国語国文コース2年 増田 菜穂

私は二年生の夏休みに、新聞社で実習をさせていただきました。そこには本学国文科卒の先輩がおられ、担任の先生や授業内容等についてお話をすることがありました。そうした中で気付いたことがあります。先輩は国文科、私は国語国文コース、学んだ年代

は違うのですが、文字や言葉、国語や文学を愛する気持ちは同じなのだということです。今年で国文は五十年の歴史に幕を閉じますが、私たちは全員が仲間です。国文の学生であったことに胸を張って、四月からは社会人として出版社で頑張ります。



## 音と音～音と人を結んで50年

音楽科長 末平 浩康

女子短大(学園短大)に音楽科あり!と言われるほどの学生が在籍した時代も過ぎてしまいましたが、音楽科はなくなることも、卒業生や彼女たちが残していった音跡は、今もなお鳴り響いています。

数十年前の音楽科は、夏季講習会等で、中央から有名なピアノや声楽の講師を招聘して行われたと聞いています。

短大を卒業していった音楽科生は、県内を中心に、音楽教師やピアノの先生をはじめ、音楽教室の講師として、地域に根差しながら活躍しておられます。また、音楽療法を活かした本学のこども

音楽教育センターでの音楽活動は、短大音楽の発信として生き生きと展開されています。ここ数年での音楽科の取り組みとしては、短大学生・教員と両附属みどり幼稚園、さらに地域の一般合唱団や児童合唱団と取り組んだミュージカル「ぞうれっしゃがやってきた」を挙げることができるでしょう。

まさに、短大が地域と共に動いた!音楽が動いた!人が動いた!50年でした。これからもその神髄は受け継がれていくことを信じています。